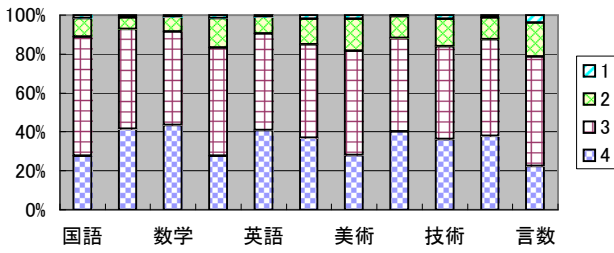
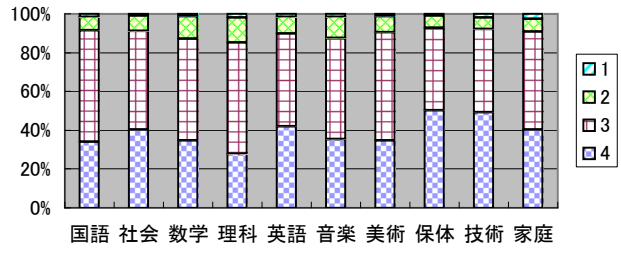


平成22年度 学校評価生徒アンケート(7月)結果分析グラフ(全校生徒分)

1 授業に意欲的に取り組んだか H22年度中間

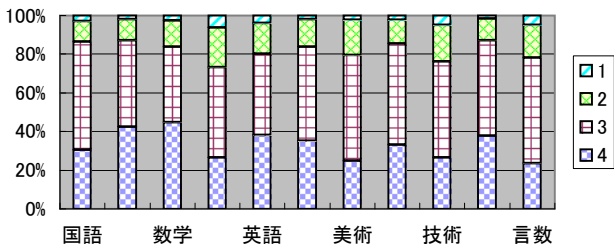


1 授業に意欲的に取り組んだか H21年度末

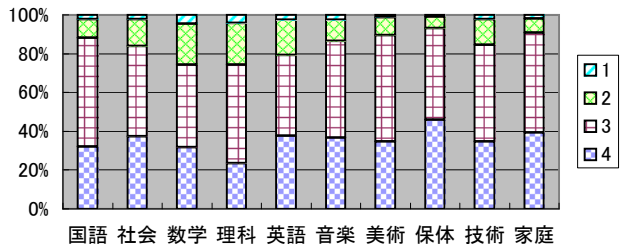


授業に「意欲的に取り組んだ」と感じる生徒の肯定的割合は全体で86.49%(昨年度89.82%)であり、前年度比-3.33ポイントとなっている。目標数値である90%以上を達成できていない。また、教職員自己評価と対比してみると「学習意欲の向上」に向けた手立てを工夫しているという教職員の肯定的自己評価割合は97.44%であり、生徒実態と教職員の自己評価に約10%の差がみられる。

2 授業はよく分かったか H22年度中間

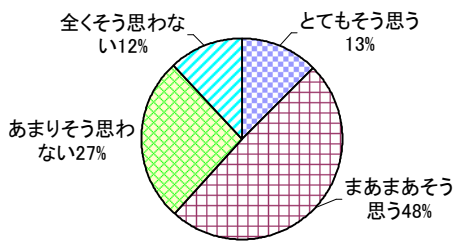


2 授業はよく分かったか H21年度末



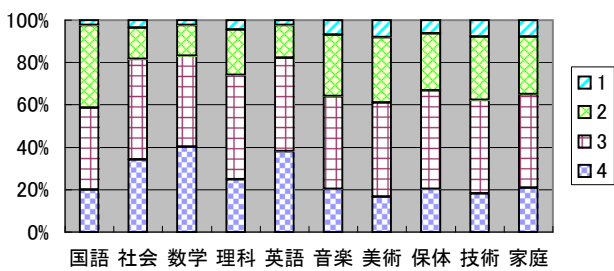
授業が「よく分かった」と感じる生徒の肯定的割合は全体で81.91%(昨年度84.36%)であり、前年度比-2.45ポイントとなっている。目標数値85%以上を達成できていない。「よく分かる授業の創造」をめざした授業改善を推進しているという教職員の肯定的自己評価割合は94.87%であり、生徒実態と10%以上のひらきがある。この結果は真摯に受け止め、今後さらに授業改善を目指す必要があることを全教職員が認識し、今後の研究に生かすことが重要である。

3 言語数理運用科で考える楽しさを感じたか H22年度中間

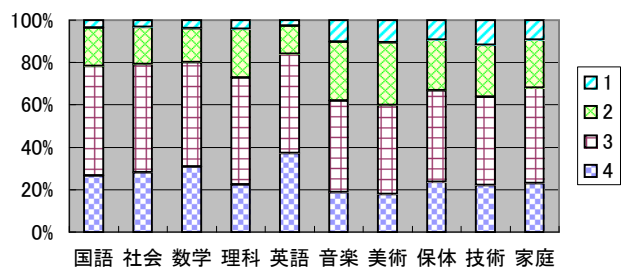


「考える楽しさ」を感じているという肯定的評価割合を学年別で比較してみると、1年生76.2%、2年生46.9%、3年生58.6%という結果であり、平均すると約61%であった。言語・数理運用科のねらいである「思考力・判断力・表現力」を身につけさせる授業展開を再度全教職員で研鑽し、特に「思考する活動」を引き出す発問や指示、そして解釈の仕方や表現的活動等「求められている学力」を高めるための授業のあり方を引き続き全教科で研究していく必要がある。

4 家庭学習をしっかりと取り組んだか H22年度中間

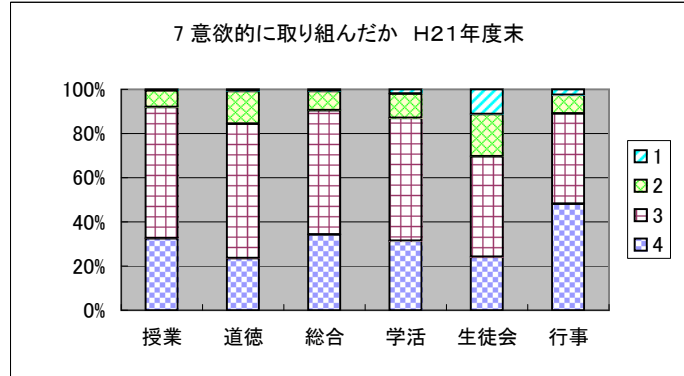
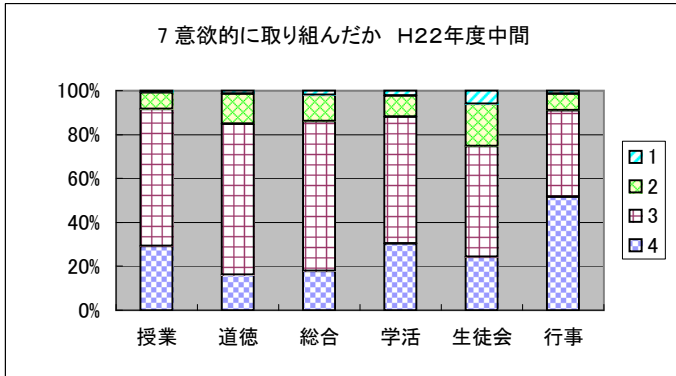
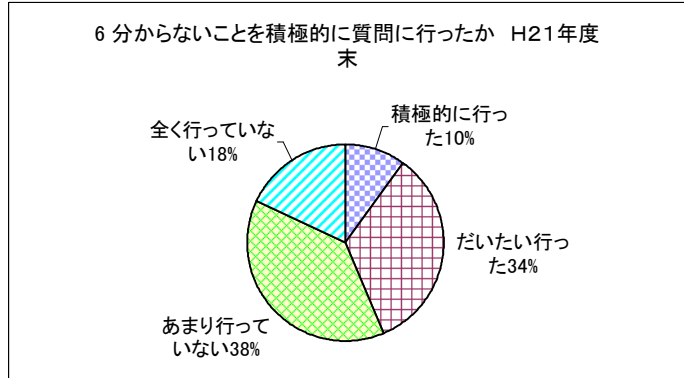
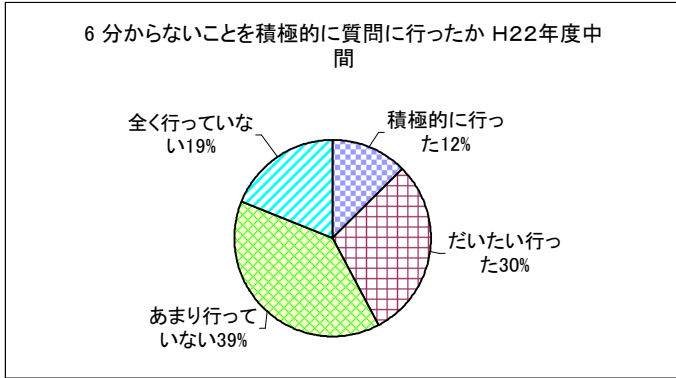
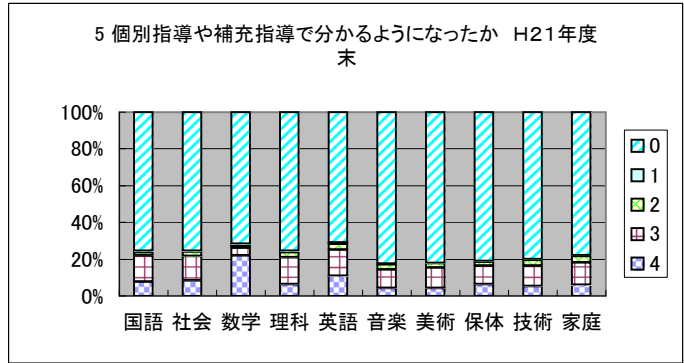
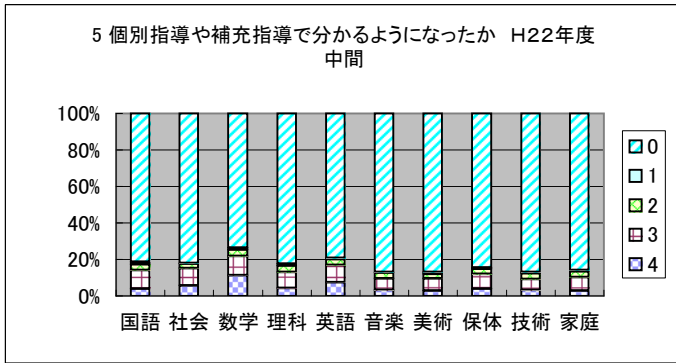


4 家庭学習をしっかりと取り組んだか H21年度末

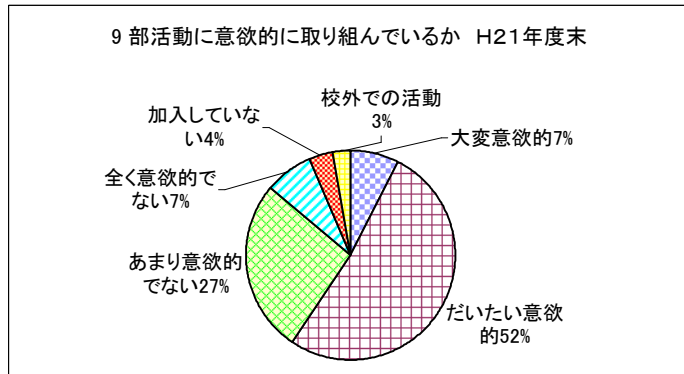
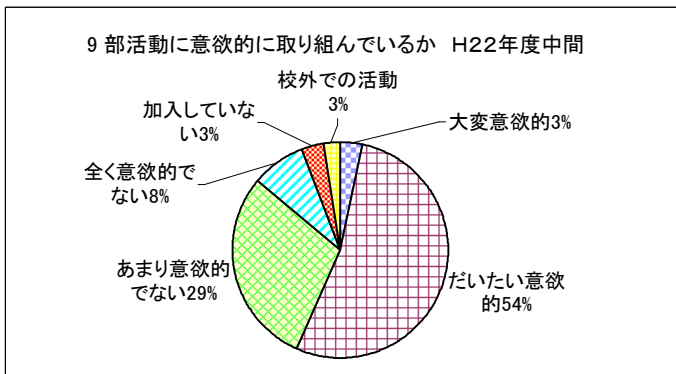
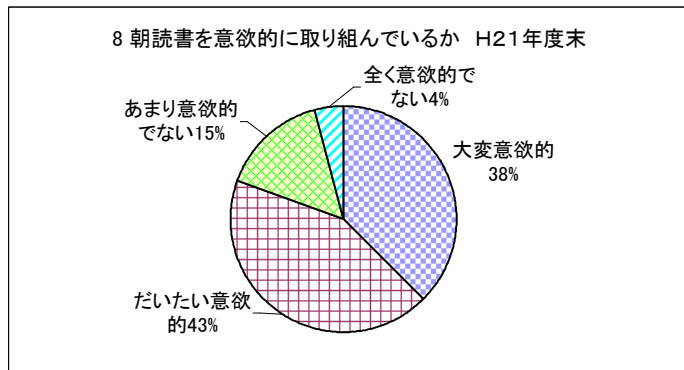
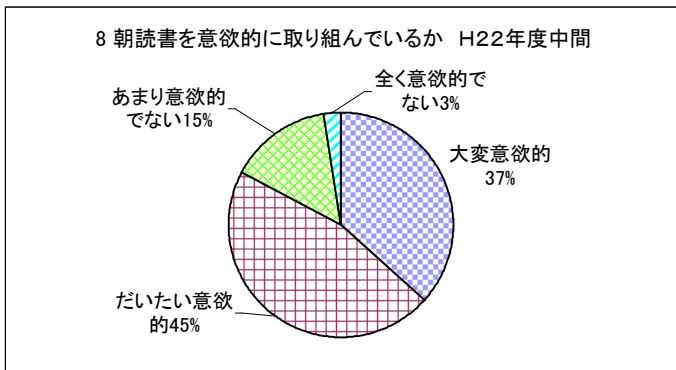


肯定的自己評価割合は69.88%(前年度71.48%)であり、前年度比-1.6ポイントであった。「全く取り組んでいない」という否定的評価は5.25%(昨年度6.96%)という結果を示している。教職員の「家庭学習の習慣性と実践力を高めている」という項目の肯定的自己評価割合は81.58%(昨年度比72.72%)である。生徒の取り組み状況を教科的にみると国語科の実施率が60%を下回っている。

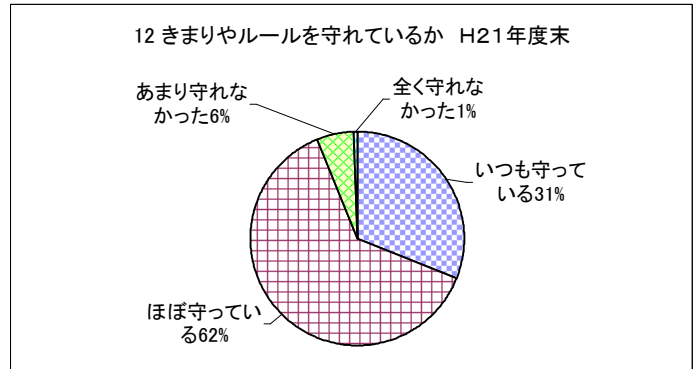
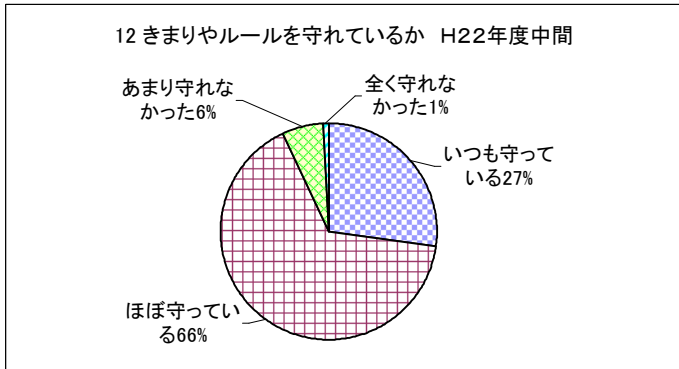
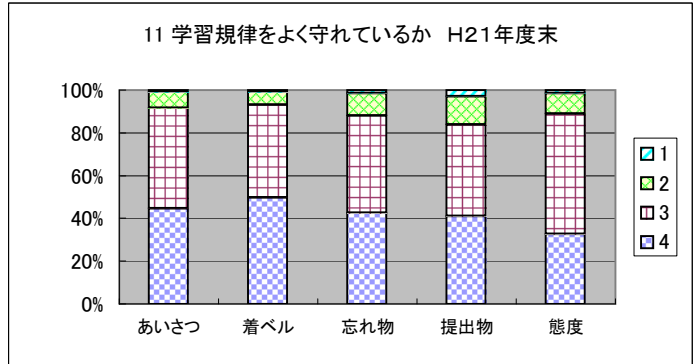
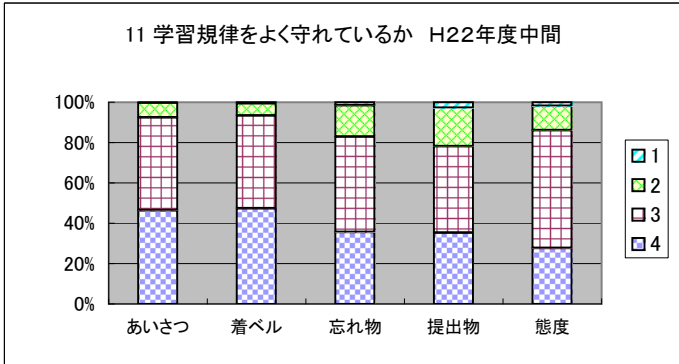
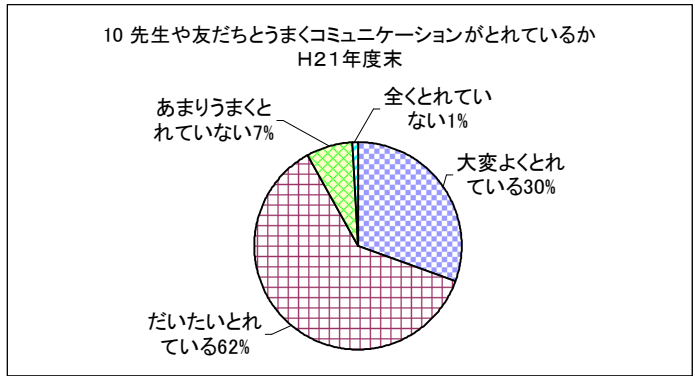
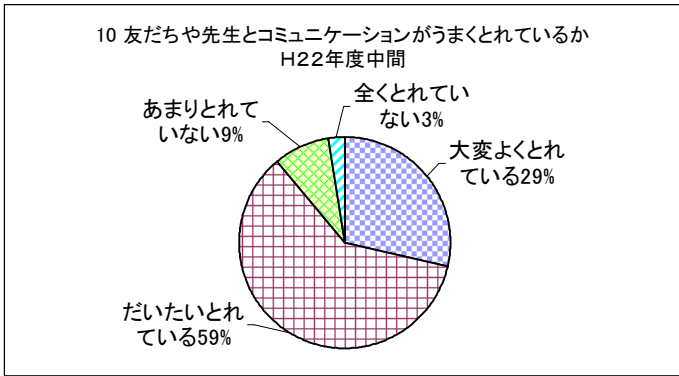
平成22年度 学校評価生徒アンケート(7月)結果分析グラフ(全校生徒分)



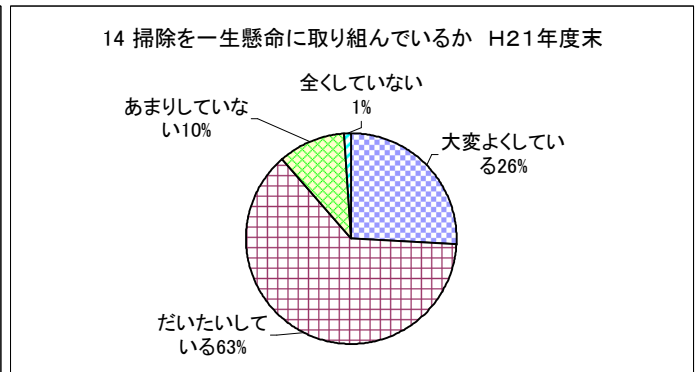
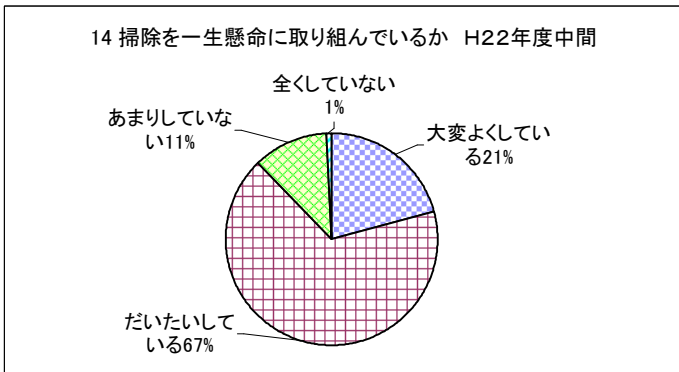
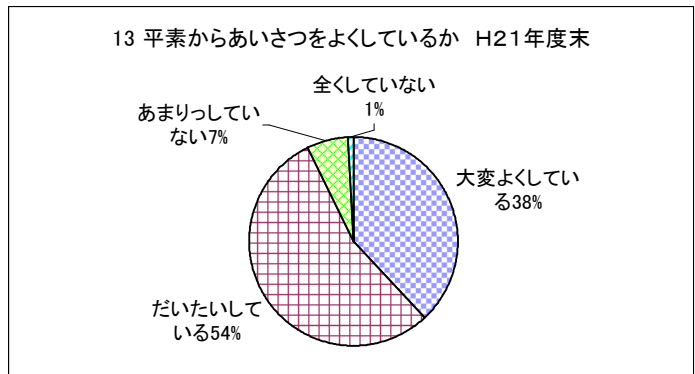
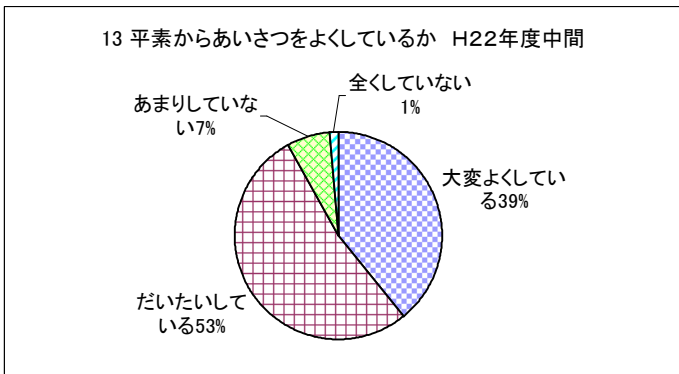
肯定的評価割合は全体平均で86.02%(前年度85.32%)で前年度よりわずかに向上している。しかし「大変意欲的に取り組んだ」という肯定的評価割合は28.16%(昨年度32.23%)という結果を示しており、前年度比-4ポイントとなっている点が課題である。



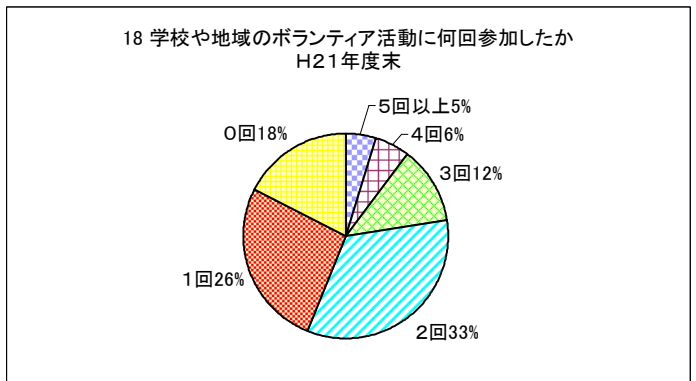
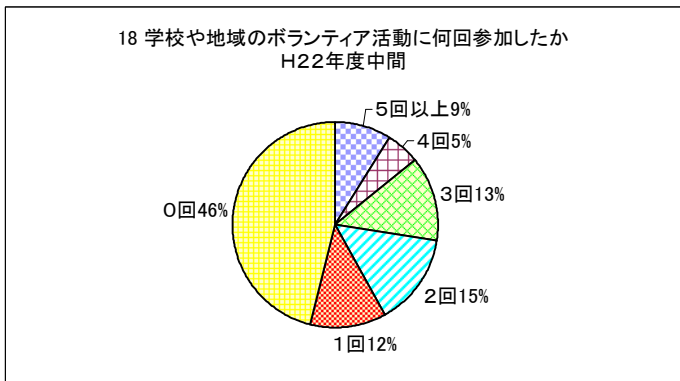
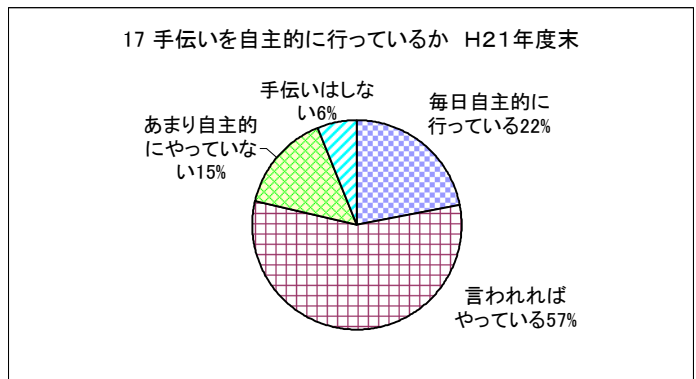
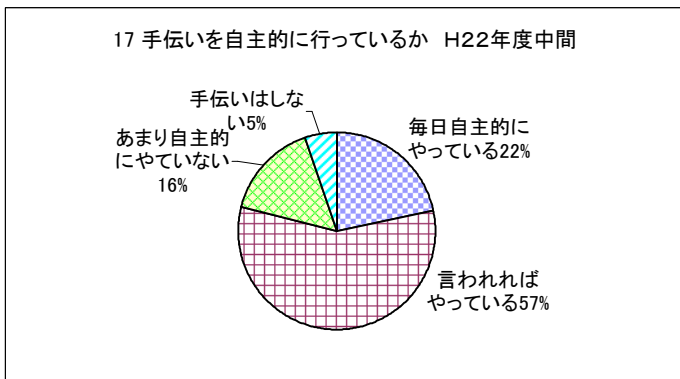
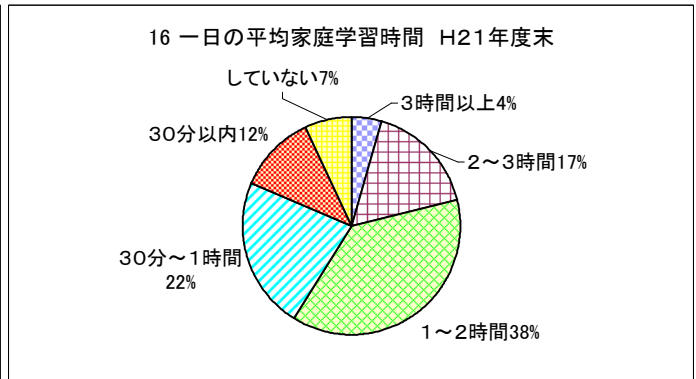
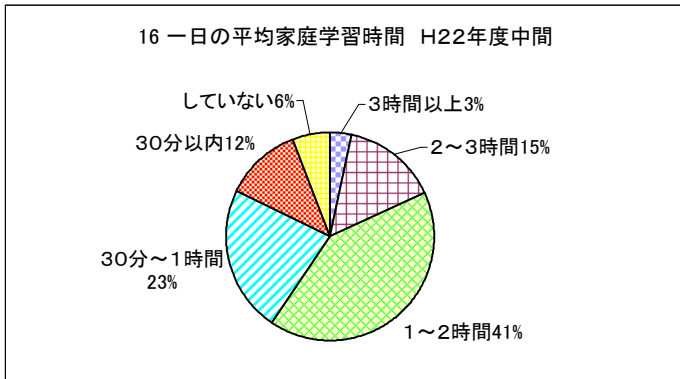
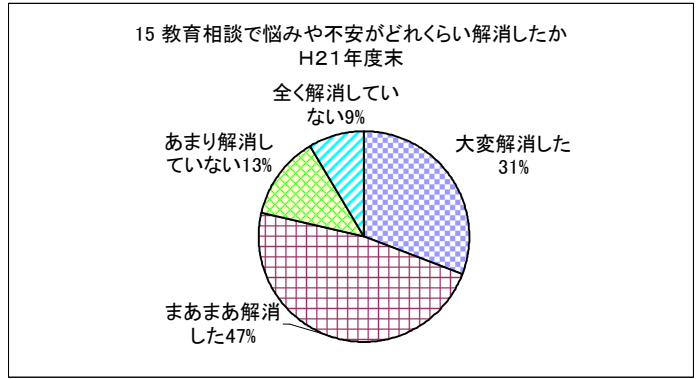
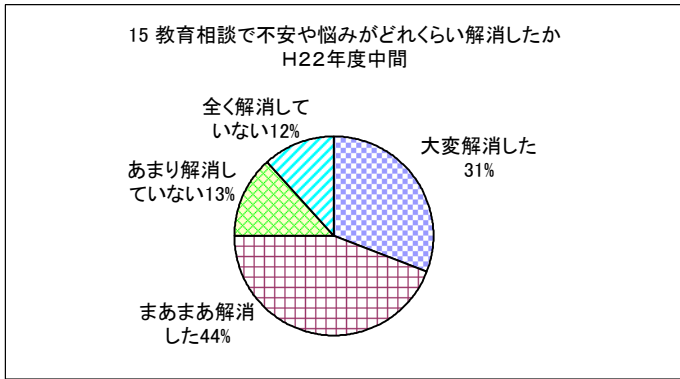
平成22年度 学校評価生徒アンケート(7月)結果分析グラフ(全校生徒分)



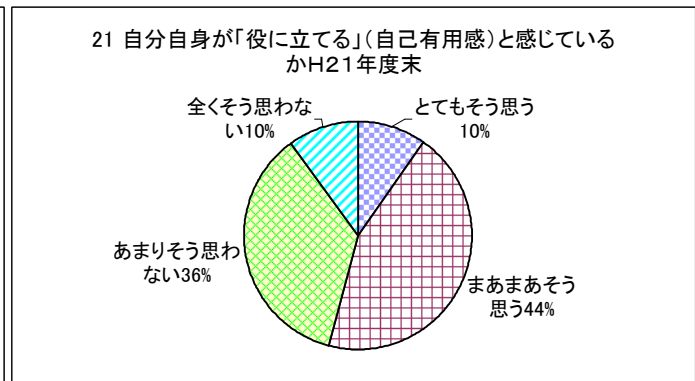
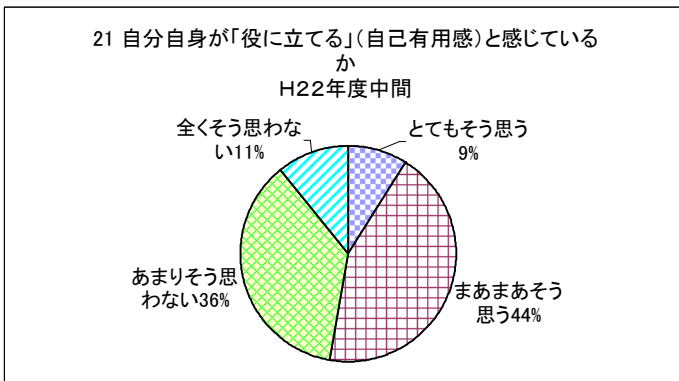
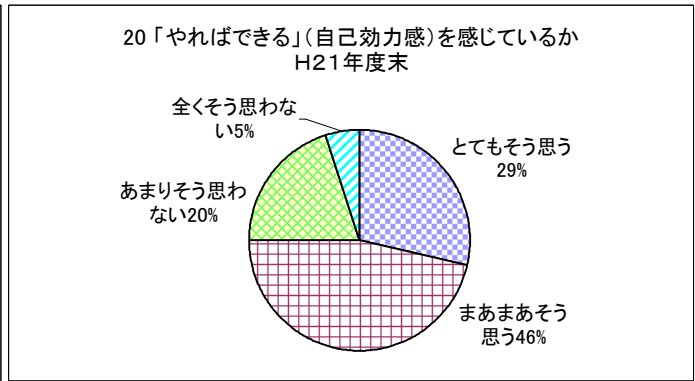
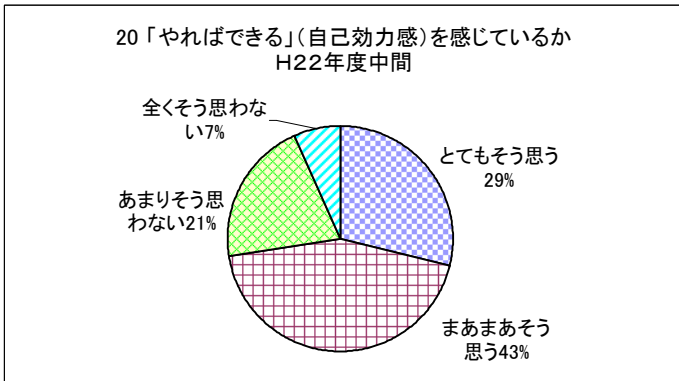
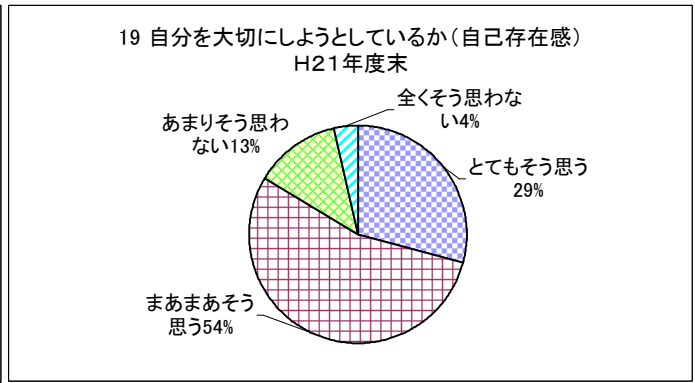
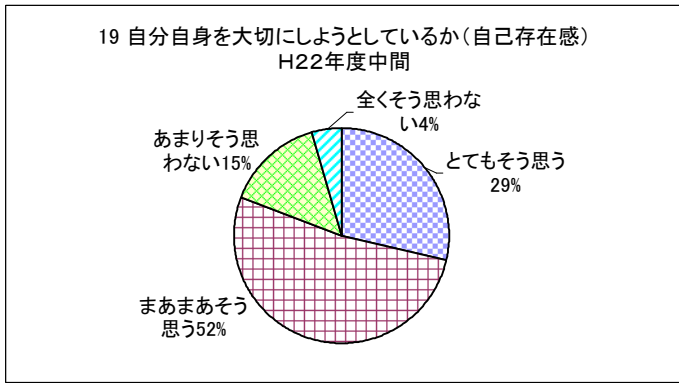
学習規律に関する肯定的評価割合は全体平均で86.58%(前年度89.08%)で前年度よりわずかに後退している。提出物に関しては80%を下回っている。忘れ物との関連もうかがえる。きまりやルールについての肯定的評価割合は前年度と同様の結果となっている。



平成22年度 学校評価生徒アンケート(7月)結果分析グラフ(全校生徒分)



平成22年度 学校評価生徒アンケート(7月)結果分析グラフ(全校生徒分)



生徒の3つの感「自己存在感」「自己効力感」「自己有用感」の否定的評価割合をみると、現在のところ、それぞれ19%(昨年度17%)、27.61%(昨年度25.07%)、47.19%(昨年度45.95%)となっており、いずれも昨年度より否定的評価割合が2%程度増加している。諸活動を通し否定的評価割合が15%未満、25%未満、45%未満となるようめざしていく目標に到達できていない。一方、教職員自己評価で「3つの感の否定的評価割合が目標数値となるようめざしている」という項目の肯定的評価割合は89.74%を示している。今後さらに生徒の3つの感が高まる取り組み推進が求められる。